令和５年度　１月　実践提案	旭区	中沢小学校	指導者　藤井さおり

小学校第３学年　絵や立体に表す活動と、相互に関連する鑑賞の活動

【学習の方向性】	○感じたことや想像したこと、見たことから表したいことを見付け、工夫して表す。 ○活動したことや表現したもののよさや面白さなどを感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げる。 【A表現（１）イ（２）イ】【B鑑賞（１）ア】〔共通事項〕
【題材名】	土の中から生まれた○○ちゃん ～土の絵の具を使って感じたことから、楽しくイメージを広げてかこう～
【題材目標】	○土でつくった絵の具の感じを楽しみながら表すときの感覚や行為を通して、形や色などの感じや、それらの組み合わせによる感じ、色の明るさなどが分かり、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すようにする。 ○土の絵の具に触れて感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えるとともに、活動したことや表現したもののよさや面白さなどを感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げるようにする。 ○進んで土の絵の具の感じを楽しみながら絵に表す学習活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに形や色などに関わり、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うようにする。

【題材の評価規準】

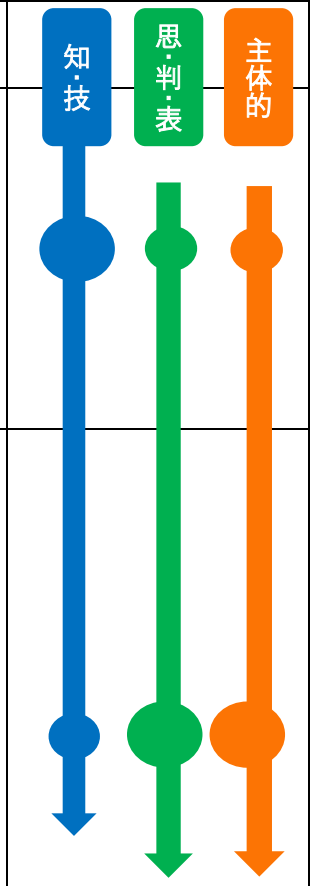
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・土でつくった絵の具の感じを楽しみながら表すときの感覚や行為を通して、形や色などの感じや、それらの組み合わせによる感じ、色の明るさなどが分かっている。 ・土でつくった絵の具の特徴を活かし、筆や自分の指を使い、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。	・土の絵の具に触れて感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 ・自分たちの表現したもののよさや面白さなどを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	・つくりだす喜びを味わい、形や色などに関わり、進んで土の絵の具の感じを味わいながら絵に表したり、鑑賞したりする活動に取り組もうとしている。

本題材における〔共通事項〕の捉え

ア　自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かること。
イ　形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

土そのものを触った感じや、土とのりを混ぜながら触った感じ、指や手の平、道具で描いたときの感じを通して、土の種類による色の違い、使用するのりの量によって変わる明るさや質感、凹凸感などの感じが分かり、描いてできた形や色、質感などの感じを基に、「土から生まれた○○ちゃんの世界」のイメージをもつこと。

	活動	具体化した評価の例 【評価方法】
1	○材料と出あう。 ○土絵の具と用具を組み合わせて描いてみる。 ○土絵の具を使って、○○ちゃんを描く。	知・技 土でつくった絵の具の感じを楽しみながら表すときの感覚や行為を通して、形や色などの感じや、それらの組み合わせによる感じ、色の明るさなどが分かっている。 土でつくった絵の具の特徴を活かし、筆や自分の指を使い、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 【観察・写真記録】
2	○土の中から生まれた○○ちゃんのいる世界を想像して描く。 ○活動したことを互いに見合う。	思・判・表 土の絵の具に触れて感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。自分たちの表現したもののよさや面白さなどを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。【観察・写真記録・ワークシート】 主 進んで土の絵の具の感じを味わいながら絵に表したり、鑑賞したりする活動に取り組もうとしている。 【観察・写真記録】



研究内容についてのふりかえり

１.「学習の方向性」を基に育成を目指す資質・能力を明確にしたカリキュラム・マネジメント

〇出あいの工夫により、子どもが〔共通事項〕を捉えることができた

自分たちが過ごす学校の土を使うことで興味をもてるようにするとともに、事前に土と十分に触れ合う時間を設定し、土の気持ちよさを実感できるようにした。子どもたちは「ひんやりする。」「さらさらだね。」など、触感を楽しんでいた。土絵の具のよさを存分に味わいながらいろいろな表現方法に気付くことができるように、模造紙に試しに描いてみるところから始めた。土絵の具との豊かな関わりを通して、子どもは〔共通事項〕を捉えることができ、知識・技能が高まったことを感じた。また、紙芝居を使い、わくわく感を高め、イメージが広がりやすいようにした。子どもたちの頭の中で物語を描けるようにしたことで、「〇〇ちゃんは羽が生えているんだ。」と互いのイメージについて子ども同士で会話する姿が見られ、思考力・判断力・表現力等が豊かに働いたことを感じた。

〇場の設定の工夫により、相互に鑑賞し、思考力・判断力・表現力等が豊かに働いた

グループごとにまとまって活動できるようにするために、机は使わず、床で描くようにした。互いに中央を向いて描くことで、描いている途中に互いの作品に目が向くようにした。〇〇ちゃんの世界を表す際も、グループの中央に画用紙を１枚置き、色の感じや描き方で変わる形の感じを試せるようにした。試す際に顔が上がることで、自然にグループの子どもの作品が目に入るようにした。

教室には材料を置くための台を５か所用意した。４つの台には土と洗濯のりを用意し、中央の台には用具を置いた。思いのままに工夫して、手や体全体を使って表現できるようにするために、トレイ１枚につき１色をつくり、グループで交換しながら試し描きをした。また、使える用具の量も絞ったことで、自分の手でどれだけ表現の工夫ができるか考える姿が見られた。半分サイズの模造紙を使ったので手の平全体を使う表現も見られた。

〇共感的支援の工夫（〇〇ちゃんのプロフィールカードづくり）により、子どもの相互鑑賞が促された

〇〇ちゃんのプロフィールカードをつくり、グループで紹介し合うようにした。作品をつくりながら「あなたの〇〇ちゃんは□□が好きだからそうやって描いているんだね」などと話しながら、相互に鑑賞する姿が見られた。さらに、できた〇〇ちゃんを教室内に掲示することで、子ども同士〇〇ちゃんを見ながら、〇〇ちゃんの様子について楽しそうに話している様子も見られた。子ども同士が、互いのイメージについて語りあうことができ、思考力・判断力・表現力等が豊かに働いた。

２.「主体的で・対話的で深い学び」の視点からの授業改善における子どもの変容

「十分に試し描きをしたこと」「題材にストーリー性をもたせたこと」で、子どもたちの中でイメージが広がったようで、活動がどんどん進んでいった。自分の活動に熱中しながらも、周りの子の活動にも目を向けることができたので、表現の工夫が広がっているのが分かった。また、「〇〇ちゃん」の性格を考え、教室内にしばらく掲示していたことで、自分の作品に愛着をもつことができた。それらが作品への思いの高まりと自分の表現への自信にもつながったと感じる。〇〇ちゃんの世界づくりでは、活動途中で教師が子どもの表現の工夫を紹介すると、その工夫を取り入れてみようとする姿が見られた。子ども同士の作品が似すぎてしまうのではないかと心配したが、実際は自分のイメージに合わせてその表現の工夫をすることができていた。

恐る恐る始める感じや思いのままに工夫して、手や体全体を使って表現できない感じはまだ少しあったものの、指や手の平全体を使って表そうとしたり、用具を工夫して使おうとしたりする姿は、以前の題材よりも増えたのではないかと感じる。出来上がった後も、土のきらきらした感じやざらつき、凹凸感を楽しむ様子が見られた。友達の作品を細部までじっくり鑑賞する姿もあった。今回の実践で、子どものイメージをどれだけ膨らませられるかがとても大切なのだと改めて感じた。話を聞いている段階や試している段階で、イメージを固めていけるような手立てを行うことで、子どもたちのどんどん表現したいという姿に繋がっていくのだということがわかった。